



## 第21回 汐風祭

・教育懇談会 ・第6回 子ども支援セミナー ・海外研修 in スウェーデン研修



## contents

- 第21回 汐風祭 .....01
- 教育懇談会 .....03
- ホームカミングデー開催報告 .....04
- 古本掘り出し市with赤穂高等学校図書部 ..04
- 第6回 子ども支援セミナー .....05
- 「市民の夕べ」福祉アンテナショップ出店 ....06
- 地域の伝統行事へのボランティア参加 .....06  
坂越の船祭り
- 夏休み宿題教室 開催報告 .....07
- 海外研修 in スウェーデン研修 .....08
- SSWイベント .....09
- 学生研究会(看護学部)主催 第2回講演会 ..10
- ひとくちメモ .....10
- 編集後記 .....10



昨年度実施し好評だった金沢発達教育学部長とそのゼミ生による理科実験教室と本学サッカー部の監督・コーチ、現役部員によるサッカー教室を今年も開催しました。昨年度よりも多くの子どもたちが、理科の魅力に触れたり、サッカーの楽しさを感じたりする機会を設けました。その他にも吹奏楽団による演奏会や茶道部によるお茶室体験などもありました。

今年は2日間とも残念ながら天候に恵まれず、足元が悪い中、本当に多くの方にご来場いただきました。ごうございました。

## 巡愛 ~No relationship, No kanpuku~

今年度の大学祭「第21回 汐風祭」は10月14日(土)・15日(日)の2日間で開催されました。

今年のテーマは、大学内の仲間や地域の方々とのかけがえない出合いやさまざまなたつなかりに感謝の気持ちを込め、「巡る」と「愛」を組み合わせた造語として「巡愛(めぐりあい)No relationship.No Kanpuku. つながりなくして関係なし」としました。「仲間や絆」「つながり」などを意識し、イベントや企画を学生が考え、関係各所との調整や協賛広告の営業活動、各イベントへの出演交渉や打ち合わせも学生が行いました。

今年度は、会場内のレイアウトを大幅に変更し、模擬店の場所を体育館横の芝生ステージ周辺にまとめ、芝生の上に休憩スペースを設けました。また、円形広場にサブステージを設置し、大学の中心でステージ上での企画を行い、多くの方に観ていただくことができました。

21回目を迎えた大学祭「汐風祭」。今年もステージでのライブやダンス、移動動物園に模擬店やフリーマーケット、教室での各種展示や体験ブースなどに加え、昨年度好評だったサッカー教室など多彩なイベントが盛りだくさんの2日間。卒業生を対象としたホームカミングデーや教育懇談会、今年は大学の20周年記念事業のシンポジウムも開催され、多くの方にご来場いただきました。

第21回

# 汐風祭

10月14日(土)・15日(日)

## ホームカミングデー開催報告

10月14日(土)・15日(日)に平成29年度関西福祉  
大学校友会ホームカミングデーを開催しました。



今年はイベントとして子ども向け英語教室を開催し、卒業生のお子さんを中心に英語の歌やカードゲームを通して楽しく英語に触れる機会となりました。



また、20周年記念行事として、「福祉マインドってなんだ～社会福祉学部における成果の検証と今後の展望～」と題して、ソーシャルワーカー、公務員、企業等で活躍する卒業生にシンポジストとしてご参加いただきました。今年は天候に恵まれず、足元が悪い中、たくさんの卒業生が参加してくれ、楽しい時間となりました。



例年と同様に、全体会、学部別懇談会、個別面談の3部構成で多くの会員の方にご参加いただきました。

全体会では、村中教育後援会長と加藤学長のあいさつがあり、その後の各学部別懇談会では、中村社会福祉学部長、金沢発達教育学部長、難波看護学部長より学部の概要や教育内容の説明があり、各学部の委員より国家試験・教員採用試験への取り組みや進路・就職・実習についての状況報告が行われました。そして、毎年ご好評をいただいております在学生による学生生活や国家試験・採用試験に向けての勉強、部活・サークル活動などについての発表もありました。ご参加いただいた会員の皆様からは「どうい教育をしているのかよくわかった」「丁寧に指導していただいている様子がわかった」などの声を多数いただきました。

また、個別面談では、担当教員から日ごろの大学での様子や学習状況などを直接聞く機会として多くの方にご参加いただきました。

毎年大学祭の1日目に開催しております、**教育懇談会**を今年も開催させていただきました。

## 教育懇談会

10月14日(土)

## 古本掘り出し市 with 赤穂高等学校図書部 (協力：赤穂警察署・赤穂市民病院)

平成29年度汐風祭において、本学図書館と兵庫県立赤穂高等学校図書部との共催、赤穂警察署・赤穂市民病院のご協力により古本市を開催し、赤穂高校図書部員5名、本学学生9名のボランティアが参加しました。

この日のために提供された本や雑誌、保存期間を過ぎた図書館資料など2,485点を図書館内にそろえ、2日間で560点を販売しました。

収益金30,900円全額は全国学校図書館協議会※1へ、また、本の一部(988点)を「ホンデリング※2」へ寄付しました。  
皆様のご厚意に感謝いたします。



※1「大規模災害により被災した学校図書館への支援」大規模な自然災害・人為的災害によって学校図書館の蔵書や施設・設備に著しい被害を受けた日本国内の地域又は特定の学校に対して、学校図書館機能復興への支援を図るために公益社団法人全国学校図書館協議会が行っている事業

※2「ホンデリング～本でひろがる支援の輪～」認定特定非営利活動法人全国被害者支援ネットワークが行っている、不要になった本を犯罪被害にあった方々への支援活動に活用する取り組み



附属地域センターでは、8月5日(土)赤穂海浜公園で開催された「第47回市民のタベ」にて、福祉アンテナショップを出店しました。

このアンテナショップは、施設利用者の方が作った授産品の販売を通じて、就労支援や障がいのある人の福祉について啓発することを目的としています。

今年は、みのり赤穂、フロンティア、わかば園、赤穂精華園の授産品協力があり、赤穂精華園からは利用者と職員の方の参加もありました。

学生スタッフの元気な呼びかけでお店を盛り上げ、今年も多くの方に商品をご購入いただきました。

## 「市民のタベ」 福祉アンテナショップ出店



10月8日(日)に行われた、赤穂市坂越地区の伝統行事「坂越の船祭り」に本学の学生がボランティアスタッフとして多数参加しました。

坂越の船祭りは瀬戸内三大船祭りの一つに数えられる勇壮な伝統行事で、十数隻の船が旗やのぼりを立て、生島へと巡航していくお祭りです。そんな地域の伝統行事に毎年多数の本学学生がボランティアスタッフとして参加しています。学生は地域の伝統行事に参加することで、地域のことを学び、お祭りを通して地域のコミュニティとは何かを学ぶという、まさに「フィールドワーク」を体験できたと思います。



## 地域の伝統行事へのボランティア参加 坂越の船祭り

## 第6回 子ども支援セミナー



平成29年8月18日(金)に第6回目となる子ども支援セミナーが開催されました。この子ども支援セミナーは本学と兵庫県立赤穂特別支援学校、赤穂市教育委員会の共催事業として毎年この時期に開催されています。

今年は、基調講演の講師に立命館大学大学院 応用人間科学研究科 教授の宮口幸治先生をお招きし、「コグトレとは？～次世代の治療トレーニング」と題してご講演いただきました。コグトレとは認知〇〇トレーニング(Cognitive 〇〇 Training)の略称で、①社会面:認知ソーシャルトレーニング(COGST)、②学習面:認知機能強化トレーニング(COGET)、③身体面:認知作業トレーニング(COGOT)の3つの治療トレーニングからなり、現在、主に学校現場において子ども達への早期支援として広まりつつあります。講演だけではなく、第2体育館にて実際にCOGETとCOGOTをワークショップ形式で聴講された方に体験していただきました。



昼食時には、社会福祉学部の八木ゼミ2年次生による活動報告やスクール(学校)ソーシャルワーカー教育養成課程の学生の実践活動報告についての展示が2号館1Fの学生ホールにて行われました。来場者の方からは「いろいろな取り組みをされていて驚いた」「日ごろから実践的な活動をされていますね」などの感想が聞かれました。



午後からは、第1から第4までの分科会に分かれての研修が行われました。第1分科会は「児童福祉施設における『自立支援計画』の考え方とプランニング(第2回卒業生のためのフォローアップ研修会)」、第2分科会は「教室の中のSpecial Education—そのとき教師はどう振る舞うか—」、第3分科会では「子どもの発達障害に関して保護者にどのように障害理解させるか—専門機関と学校(養護教諭など)との連携—」、第4分科会は「発達に特性のある子ども一人ひとりを大切にしたい教育を目指して—幼稚園・小学校・中学校等における支援の実際—」のそれぞれのテーマについて、児童福祉施設や学校、保育園などにお勤めの方から保護者の方まで幅広くご参加いただき、どの会場も非常に活発な意見交換や質疑応答などが行われていました。特に第1分科会では、多くの卒業生が参加してくれました。本学では卒業生のためのスキルアップ研修会も継続して開催させていただきます。残暑厳しい中、ご参加いただきました皆様ありがとうございました。



次年度も今年度同様、多くの方にご参加いただける有意義なセミナーにしたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願いたします。



## 海外研修 in スウェーデン研修

8月17日から25日まで、7泊9日のスウェーデン研修に行きました。

参加学生は、発達教育学部1名・社会福祉学部2名・看護学部6名、そして引率教職員2名の合計11名で、関西国際空港からフィンランドを経由し、スウェーデンの首都ストックホルムへ降り立ちました。

日本はまだ夏真っ盛りの季節でしたが、スウェーデンは16℃前後の気候で、とても過ごしやすかったです。高齢者施設・小学校・プリスクール・デイサービスセンター・看護師養成大学や補助器具自助器具センターへの訪問を通して、スウェーデンの福祉制度や教育内容を学び、日本との違いに驚いたり、新たな知識を身につけることができました。週末には、自分たちで観光プランを立て、公共の交通機関を利用し、地図を片手に道を尋ねながら目的地に着くと、英語が通じたことの喜びを感じることもできました。またこの研修では、出発までも事前学習の機会を何度か設け、学部や学年を越えて一緒に過ごす時間が多く、普段の学生生活では得られない、貴重な研修旅行となりました。



## 夏休み宿題教室 開催報告

毎年恒例となっている夏休み宿題教室。今年は、8月2日・3日に赤穂市（本学）、8月4日・8日に上郡町（県民交流広場「菊森さんの家」、上郡町生涯学習センター）、8月6日に備前市（備前市市民センター）の3会場で計5日間開催しました。延べ258名の小学生に参加いただき、会場は子どもたちの元気な声で溢れました。学生ボランティアスタッフは延べ41名、子どもたちが各々持参した宿題を一緒に考え、やる気が続くよう応援しました。本学会場では、休み時間に体育館を開放してボールやフラフープなどで体を動かしながら子どもたちとの交流も図りました。

上郡会場では、今年も食育教室を開催。上郡町いずみ会の方々にご指導いただきながら、同町特産モロヘイヤ入りのチャーハンや野菜たっぷりスープなどを作りました。また、お昼休みには地元の見聞かせサークルによる絵本の朗読会が開かれ、様々な世代が交流する場にもなりました。



## ひとくちメモ

- 開学：平成9年(1997年)4月
- 開設：(社会福祉学研究所)平成21年(2009年)4月  
(看護学研究所)平成24年(2012年)4月  
(発達教育学部)平成26年(2014年)4月
- 学部・学科：社会福祉学部・社会福祉学科  
発達教育学部・児童教育学科  
看護学部・看護学科
- 大学院：社会福祉学研究所修士課程  
看護学研究所博士前期課程  
看護学研究所博士後期課程
- 学長：加藤 明
- 教員数：専任(助手を含む)  
社会福祉学部 21名・発達教育学部 16名・  
看護学部 33名  
社会福祉学研究所(9名)・看護学研究所(21名)
- 職員数：49名
- 学生数：社会福祉学部 408名・発達教育学部 271名  
看護学部 364名  
社会福祉学研究所修士課程 3名  
看護学研究所博士前期課程 13名  
看護学研究所博士後期課程 5名
- 教員一人あたりの学生数：社会福祉学部 19名  
発達教育学部 17名  
看護学部 11名
- 卒業生数(学部)：累計 4,565名
- 卒業生数(大学院)：累計 35名
- 社会福祉士合格者数：累計 1,482名  
(※累計人数は全て既卒者込み)
- 精神保健福祉士合格者数：累計 290名
- 看護師合格者数：累計 659名
- 保健師合格者数：累計 404名
- 敷地：59,674㎡
- 延床：19,745㎡

平成29年10月1日現在

## 編集後記

過ごしやすい気候、長袖を着る学生さんたち、スーパーに並んだ梨やブドウなどのフルーツを見て、すっかり秋になったなあと感じる今日この頃です。大学では、学生さんたちにとっての一大イベントの大学祭が行われました。今年は天候に恵まれず残念でしたが、この日に向けて、学生たちは企画を考え、準備を進めてきたので、多くの方に来場していただけてよかったなと思いました。また、大学祭の1日目には教育懇談会も開催させていただき、多くの会員の皆様にご参加いただきました。ありがとうございました。(H)

もうすっかり秋を迎え、冬の足音がすぐそこまで迫ってきていることをTVのCMやインフルエンザの予防接種の案内などを見て感じています。冷夏の年は冬にインフルエンザが流行しやすいとのニュースを見て、社会人になって10年以上、一度もインフルエンザの予防接種を受けていないにも関わらずインフルエンザにかかったことがない私ですが、今年は予防接種を受けようかと悩んでいます。会員の皆様も体調管理には十分ご留意ください。(T)



## 学生研究会(看護学部)主催 第2回講演会

9月30日(土)第2回学生研究会(看護学部)講演会が開催され、学生や教職員の他、一般の方にも多数ご参加いただきました。

講師は、精神看護専門看護師としての実践に加えて、医療職者からの相談や調整業務も担って活躍されている三浦真衣先生(広島赤十字・原爆病院精神看護専門看護師)で、主にご自身の実体験を交えながら「患者さんへの心のケアとナース支援～リエゾンナースとしての試み～」をテーマにご講演いただきました。

参加学生からは、「患者だけでなく、看護師への心のケアの大切さも知った。看護師の心のゆとりは患者につながっていくと思った」「患者さんへの心のケアと共に、目標を持ってもらえること、背景を引き出すことができるように向き合えられたらなと感じた」「不安を抱えているのは自分だけではないことや、必ず相談できる相手がいることを改めて学ぶことができ、少し不安が解消された」といった感想がありました。

## SSWイベント



9月2日(土)に毎年この時期の恒例行事となっているスクール(学校)ソーシャルワーカー教育課程の学生による地域親子交流行事が行われました。



今年は「作って！遊んで！謎を解け！～ミステリーツアー～」というタイトルどおり、トートバックにデコパージュを施し、オリジナルのトートバック制作やバスボム制作、しっぽりゲームに謎解きゲームなど



実際に何かを作ったり、体育館で体を動かして遊んだりと楽しい企画が盛りだくさんでした。さまざまな企画を通して、参加してくれた地域の小学生同士やその保護者の皆様に楽しく交流していただきました。

企画を担当した学生は、どうすれば参加していただいた方同士の交流が活発になるか、楽しんでもらえるかを考え、企画・準備を進めてきました。参加者からは「楽しかった」「いっぱい遊べた」「普段より子どものことをゆっくり見て向き合えた」などご好評をいただきました。

また、企画した学生たちも、事前の準備や当日の運営など、実際に社会に出てから必要になることを経験でき、非常に有意義な一日となりました。

